

## 腎臓移植のレシピエント選択基準を検討する上での考え方等について

### 1. レシピエントの優先順位付けの基準を設定する上で基本となる視点

#### (1) 医学的妥当性

→ 特定のレシピエントを他のレシピエントと比べて優先させることによって移植成績が向上するかどうか

#### (2) 社会的公平性

→ 特定のレシピエントを他のレシピエントと比べて優先させることによって「より助けるべき人を助ける」ことになるかどうか、また、他の臓器における扱いとの平仄をどう考えるか

#### (3) 実施可能性

→ 上記(1)又は(2)の観点からドナー及びレシピエントの個々の状況を確認することが検査体制・費用等の面から可能かどうか

### 2. 現行基準の構造

(1) 搬送時間（同一都道府県内の方が点数が高い）

(2) HLA 適合度（ミスマッチ数が少ない方が点数が高い）

(3) 待機日数（長期間待っている方が点数が高い）

(4) 未成年のポイント加算（若い方が点数が高い）

→ 上記4項目の点数を合算し、点数が高い順番に優先順位をつける。

→ 上記の合算の結果同一点数のレシピエントがいる場合には、臓器搬送に要する時間や医学的条件に配慮して優先順位付けを行う。

→ レシピエント選択基準の変更を検討する上で留意すべき論点

#### (論点1) 上記の基本構造の見直しに踏み込むかどうか

→ 基準変更には、それにより不利益を受ける可能性のある者にも納得していただくだけの理由が必要である中、基本構造見直しまで踏み込むことにはそれだけ大きな必然性が必要。

#### (論点2) 基準変更に必要な必然性があるかどうか

→ 解決すべき問題が、レシピエント選択基準の見直しによって対応すべきものかどうか

→ 基準変更を裏付けるだけの日本における臓器移植の定量的なデータ（エビデンス）があるかどうか。